

【ワシントン貴志雅之】「障害がある人たちのための音楽療法施設を北海道につくりたい」—そんな思いを抱きながら、米ニューヨークで活動する札幌出身の女性がいる。ニューヨーク大

学大学院生の廣田美香子さん(29)。その活動を通じ、鳩山由紀夫首相とともに9月下旬に訪米した幸夫人の外交デビューにも一役買った。夢は一步、実現に近づきつつある。

NY在住 札幌出身の廣田さん

道内に音楽療法施設を



鳩山幸夫人(左端)の訪問を受け、担当の子らとともに記念撮影する廣田美香子さん(右端)＝廣田さん提供

の一方で、ニューヨーク近郊に在住する日本人向けに、同療法を紹介する活動にもかかわらず、「障害者がつくりだす即興音楽を音楽療法士がメロディーに膨らませることなどで、人間が生来持つ音楽への反応力を刺激し、障害者の可能性を広げる」

訪米で一役 資格取得目指す

「障害者がつくりだす即興音楽を音楽療法士がメロディーに膨らませることなどで、人間が生来持つ音楽への反応力を刺激し、障害者の可能性を広げる」

「障害者がつくりだす即興音楽を音楽療法士がメロディーに膨らませることなどで、人間が生来持つ音楽への反応力を刺激し、障害者の可能性を広げる」

首相夫人の 資格取得目指す

廣田さんは今、同大「ノードフ・ロビンス音楽療法センター」に音楽療法士資格を取った。札幌市内の短大を卒業後、音楽療法を学ぶために参加している。そ

「障害者がつくりだす即興音楽を音楽療法士がメロディーに膨らませることなどで、人間が生来持つ音楽への反応力を刺激し、障害者の可能性を広げる」

を見学する目的で、9月22日に廣田さんらの音楽療法活動を視察。廣田さんの担当する自閉症児と「さくら」を一緒に演奏し、即興で歌もうたった。「音楽を使ってコミュニケーションを図るって良いですね」。別れ際の幸夫人の言葉に、廣田さ